

シラバス 1

指定番号 284  
商号又は名称：株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	介護職の心構えと目指すべき方向をイメージし理解 今後の学習内容の説明による全体像の把握を理解 介護保険サービス、介護保険外サービスについての理解 地域社会との連携			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービスの理解	2.5	2.5		<講義内容> 介護とは何か 介護の心構え 介護サービスの仕事 介護保険サービス、介護保険外サービス等 <演習実施> 「介護職」のイメージ、各々が思う「介護」について グループディスカッション
②介護職の仕事内容や 働く現場の理解	3.5	3.5		<実習> 特別養護老人ホーム等を見学し、実際の現場、環境、 雰囲気を感じ取る。 <講義内容> 現場職員の体験談 介護職の仕事内容 ケアプランからサービス提供に至る過程 地域社会との連携
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス 2

指定番号 284  
商号又は名称： 株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	自立支援、介護予防の基本的視点の理解 高齢者虐待についての理解 人権啓発に係る基礎知識の習得、理解 人権と尊厳が何故大事かを理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①人権と尊厳を支える介護	3	3		<講義内容> 尊厳とは何か I C F とは何か、介護における I C F の考え方 Q O L の考え方 ノーマライゼーションの考え方 虐待予防、虐待拘束禁止について 個人の権利を守る制度の説明
②自立に向けた介護	4	4		<講義内容> 自立支援とは何か 自立・自律支援の必要性 残存能力の活用等々 介護予防とは何か 介護予防の考え方 介護予防の目標
③人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> 人権について 人権への取り組み 身近な人権のこと
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス 3

指定番号 284

商号又は名称： 株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	介護職の基本、役割の理解 介護職に求められる専門性の理解 介護職の倫理、社会的責任についての理解 介護における安全の確保とリスクマネジメントの理解 感染の原因と経路についての理解 介護職員の健康管理についての理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2		<講義内容> 介護環境の特徴とサービスの違い 地域包括ケアの方向性と考え方 介護の専門性とその理解 介護における「チーム」の重要性。 ・社内チーム ・多職種とのチーム 介護に関する職種
②介護職の職業倫理	1	1		<講義内容> 介護職の倫理 介護職の社会的責任 介護職のコンプライアンスの重要性 地域における介護職の役割
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2		<講義内容> 介護職の安全の確保 ・介護現場における事故とその要因 ・安全管理体制について 事故予防、安全対策 感染の経路とその対策
④介護職の安全	1	1		<講義内容> 介護職の心身の健康管理
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

# シラバス 4

指定番号 284  
商号又は名称： 株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度の理念、利用の流れ等の理解 医療との連携についての理解 地域包括ケアシステムの理解とその方向性の理解 障がい者総合支援制度の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	3	3		<講義内容> 介護保険制度の理念 介護保険制度の動向 介護保険制度の仕組、利用方法、及び、介護給付について ケアマネジメントとサービス計画策定 要介護認定の手順 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 地域包括ケアシステムの背景及び動向
②医療との連携とリハビリテーション	4	4		<講義内容> 介護と医療との連携(地域包括ケアシステムについて) 介護職と医行為 リハビリテーションの理念
③障がい者総合支援制度 およびその他制度	2	2		<講義内容> 障がい者総合支援制度の理念 障がい者総合支援制度の動向 障がい者総合支援制度の仕組、支給決定までの流れ 個人の権利を守る制度の概要
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス 5

指定番号 284  
商号又は名称： 株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	介護におけるコミュニケーションの重要性、信頼関係構築の必要性の理解 利用者・家族の心情、及び、そのコミュニケーションの取り方の理解 施設等チーム内でのコミュニケーションの重要性、有効性の理解 「記録」「報告」「会議」の意義、重要性の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容> 介護におけるコミュニケーションの重要性 コミュニケーションの意義、目的、役割 コミュニケーションによる信頼関係構築について 利用者とその家族とのコミュニケーション コミュニケーションの技術と向上 介護職員による「コミュニケーション」体験談 <役割演技> 講義後、班別にてコミュニケーションについてのロールプレイングを実施
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> 施設等チーム内でのコミュニケーションの重要性 「記録」による情報共有化とその意義、重要性 「報告」の留意点とその重要性 「会議」における情報共有と役割認識 介護職員による「情報共有」に関する体験談 <課題討議> 講義後、班別にて「チーム内コミュニケーション」についての意義、重要性について意見交換
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス 6

指定番号 284

商号又は名称： 株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	高齢化に伴う心身の変化とその特徴、及び、日常生活の影響を理解 高齢者に多いケガ、病気とその背景、留意点の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3	3		<講義内容> 高齢化に伴う心身の変化とその特徴 老化による日常生活の影響 ・咀嚼機能の低下による影響 ・筋・骨・関節の変化による影響 ・体温維持機能の変化による影響等々 介護職員としての高齢者変化の気づきの重要性①
②高齢者と健康	3	3		<講義内容> 高齢者の生活上の留意点 高齢者に多いケガとその背景 高齢者に多い病気とその背景 介護職員としての高齢者変化の気づきの重要性②
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス 7

指定番号 284  
商号又は名称： 株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	認知症の歴史、認知症ケアの理解 認知症の中核症状、心理症状等の理解 認知症利用者とのコミュニケーションの原則の理解 認知症に伴う心身の変化と日常生活の影響の理解 認知症家族の支援、援助の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1	1		<講義内容> 認知症の歴史、認知症ケアの理念
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2		<講義内容> 認知症の概念と症状 認知症ケアの要点 認知症利用者の健康管理
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2		<講義内容> 認知症の中核症状、心理症状 認知症の行動 認知症利用者への対応 認知利用者とのコミュニケーション <事例紹介> 介護職員による認知症介護の体験談
④家族への支援	1	1		<講義内容> 認知症家族の心理状況 認知症家族とのコミュニケーション 認知症家族の支援。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス 8

指定番号 284  
商号又は名称： 株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF の理解 障がいの内容、特徴とのかかわり支援等の理解 障がい者の家族の心理、及び、支援の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障がいの基礎的理解	1	1		<講義内容> 障がいの概念と ICF 障がい者福祉の基本理念
②障がいの医学的側面、 生活障がい、心理・行動 の特徴、かかわり支援等 の基礎的知識	1	1		<講義内容> 障がいの内容と特徴 身体障がい 知的障がい 精神障がい その他 障がいの医学的側面
③家族の心理、かかわり 支援の理解	1	1		<講義内容> 障がい者家族へ支援 レスパイトケアについて
(合計時間数)	3	3		

使用する機器・備品等	
------------	--

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。  
※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。  
※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス 9

指定番号 284

商号又は名称：株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護職として習得すべき法律上の規定、倫理の理解 ICF に基づく生活支援の理解 介護に関する心身のメカニズム、及び、基礎知識の理解 家事と生活、家事援助に関する基礎知識、及び、生活支援の理解 快適な居住環境、それに伴う考え方、及び福祉用具に関する理解 生活全般（整容、移動・移乗、食事、入浴、排泄、睡眠等）の心身の仕組、自立に向けた介護、及び、支援方法の理解 ターミナルケアの基礎知識、本人、家族への対応に関する理解 介護過程の理解と生活支援技術の習得			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護の基本的な考え方	3	3		<講義内容> 法的根拠に基づく介護 介護職としての倫理、尊厳の保持 ICF の視点に基づく生活支援
②介護に関するこころの しくみの基礎的理解	4	4		<講義内容> 学習と記憶の基礎知識 感情と意欲の基礎知識 こころが行動に与える影響 体の状態がこころに与える影響
③介護に関するからだの しくみの基礎的理解	4	4		<講義内容> 人体の各部の名称と動きの基礎知識 骨・関節・筋、神経に関する基礎知識 こころと体のバランス 利用者の生活相違点に気づく視点
④生活と家事	3	3		<講義内容> 家事と生活の理解 家事援助の基礎知識 自立支援と予防的対応 <事例研修> 介護職員の家事援助等の体験談
⑤快適な居住環境整備と 介護	3	3		<講義内容> 高齢者・障がい者の快適な居住環境の基礎知識バリアフリーについて家庭内における事故の理解福祉用具貸与及び制度

⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4		<講義内容> 整容に関する基礎知識 整容に関する支援技術 <実技演習> 介護職員による実際の模範技術 班別によるロールプレイング	
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> 移動・移乗に関する基礎知識 移動・移乗の道具活用方法 移動介助の具体的方法、及び、技術の理解 褥瘡予防-1 <実技演習> 介護職員による実際の模範技術 班別によるロールプレイング	
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> 食事に関する基礎知識 食事介助の留意点と支援方法 ・嚥下、咀嚼について ・誤嚥性肺炎について ・福祉用具の活用 等 口腔ケアの基礎知識と重要性 <実技演習> 介護職員による実際の模範技術 班別によるロールプレイング	
⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> 入浴・清潔保持に関する基礎知識 入浴における利用者のところと体の配慮 さまざまな入浴介助と支援方法 用具の活用方法 <実技演習> 介護職員による実際の模範技術 班別によるロールプレイング	
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> 排泄に関する基礎知識 排泄における利用者のところと体の配慮 排泄介助と支援方法 用具の活用方法 排泄と食事 <実技演習> 介護職員による実際の模範技術班別によるロールプレイング	

⑪睡眠に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護	7	7		<講義内容> 睡眠に関する基礎知識 褥瘡予防-2 安眠の為の環境整備 睡眠を阻害する要因 <実技演習> 安眠の為のベッドメイキングの注意点等	
⑫死にゆく人に関連した ところとからだのしくみ と終末期介護	7	7		<講義内容> ターミナルケアについて 介護職員の基本的態度 多職種との情報共有の必要性 <実技演習> ターミナルケアの模擬演習	
⑬介護過程の基礎的理解	3	3		<講義内容> 介護過程の目的・意義・展開 介護過程とチームアプローチの重要性 <実技演習> 介護過程の模擬演習	
⑭総合生活支援技術演習	9	9		<事例研修> 事例を3～5提示 <実技演習> 上記事例に基づき実際の介護のロールプレイング等	
(合計時間数)	75	75			

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス 10

指定番号 284  
商号又は名称： 株式会社エイジュ

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、「介護」の業務、基本的態度を理解 チームアプローチの重要性を理解 実際の現場を見学し、今後介護職として必要な技術、知識を理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	2	2		<講義内容> 研修全体のまとめ 介護職に必要なこと <現場見学> 特別養護老人ホーム等の見学
②就業への備えと研修修了後における実例	2	2		<講義内容> 今後継続的に学ぶべきこと <演習> 特別養護老人ホーム等の見学等を受け、班別に「今後介護職に必要な事柄」について意見交換。
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。  
※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。  
※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。